第７回　令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会　議事概要

１　日　時　　令和５年１月 25 日（水）　10:00～11:45

２　場　所　　富山県農協会館 801 会議室

３　委員出席者

金岡　克己	牧田　和樹	伊東　潤一郎	稲田　裕彦
尾畑　納子	河上　めぐみ	近藤　智久	品川　祐一郎
白江　　勉	白江　日呂雄	鈴木　真由美	須田　英克
能作　千春	本江　孝一	松山　朋朗	

４　会議の要旨

司会が開会を宣した。

議事事項

○　令和２年度新高校開校に係る評価について

○　県立高校の学びの改革に向けて

事務局から資料に基づき、本会における検討事項の確認と検討に当たって参考とする事柄などについて説明した。

（委員長）

今日は２つ議題がございますので、短時間で皆様からご発言いただくという形で、よろしくお願いいたします。それでは、新高校に係る評価について皆様のご意見を伺います。

（委員）

まず、新高校の資料、或いは今の説明につきまして、中学生が新高校に進学し、どのような活動を大切にしているか、どんな気持ちでいるのかを私たちはまったく知ることができませんでしたが、この資料のおかげで知ることができました。生徒は概ね満足し、充実した高校生活を送っていることが分かり、本当に嬉しく思っています。まとめていただいた事務局、どうもありがとうございました。

高校再編統合が取り上げられるようになった頃は、再編対象校の募集停止によって中学生の進路の選択肢が減ってしまうというように不安に思った生徒や保護者が実際にいました。しかし、特色ある学科や部活動、或いは伝統を残して、再編対象校の良いところがうまく取り込まれており、中学生や保護者にとって影響が最小限にとどめられたような良い印象が私にはあります。

昨日の新聞に高岡高校のトレーニングハウスの竣工式についての記事がありましたが、その中には高岡西高校のメモリアルルームもあるという紹介がされていました。統合された学校のこともいまだにとても大事にしていると分かり、大切なことだと思いました。

（委員）

県立高校の再編の評価について、十分にまとめられていると感じています。その中で、学科の統合、例えば学科が増えたことの様子については非常によくわかると思うのですが、学校の規模などについて、もう少しメリットが分かるようなものを出していった方が良いのではないかと感じています。多分、これから先、子どもたちが減っていく中で、さらに統合というものを進めなければいけない話になっていくと思うのですが、その時に学校の規模感についての考え方のようなものをもう少し出してきた方が良いのではないかと感じました。

再編後の倍率についてですが、入善高校の倍率がなかなか再編後も上がっていないというところが、特に新川地区に住んでいる我々の目から見ると非常に心配です。通学時間の変化について、資料３－３の最後のページにあります。例えば、富山北部高校や高岡高校の場合は、新しい高校に変わったことによって平均した通学時間が少し長くなっている感じがしますが、入善高校や南砺福野高校の場合は、子どもたちの通学時間が全体を平均すると短くなっているようで、特に 30 分未満が増えているように思います。今まで別の高校に通っていた方が、その高校の定員が増えたことによって通いやすくなった結果だと思います。その状況の中で、例えば入善高校の倍率をこれ以上、上げていくことは難しいのではないかということが見えてきて、通いやすさという点から少し心配であると感じました。

（委員）

今回の資料の中でも農業科を中心に見せていただきました。まず、新校のアンケートを通して、私自身が高校にしても中学校、小学校にしても学校再編については慎重な意見を持っていましたが、統合することで充実した部活動や教育がなされていることが具体的に見てとれます。この資料はこれから再編していく中で、とにかく良い情報であるので、いち子どもの親として、たくさんの方に正直に見せても良いくらいの素晴らしいアンケート結果だったと思っています。その中で、新校の入善高校農業科にはデュアルシステム型という地域と連携している実習が始まっていると知り、富山県のいち農家としても、そこに参加、協力するというようにタッグを組みたいと思いました。南砺福野高校についてもそうですが、地元の農家と高校生がタッグを組める形を実現することはすごく魅力があると思うので、発信して欲しいと感じました。

後半の骨子素案については、資料４の１ページ目にある「チーム富山教育」のところにとてもワクワクします。地元の職業人として関わりたいと思える「チーム富山」というワードがとても良いと思っています。

下部に普通系学科、総合学科、職業系専門学科、定時制・通信制とありますが、定時制・通信制についてどうしても富山ではイメージが受け取りにくいところがあると思うので、新しい進化を感じる副題のようなネーミングを考えても良いのではないかと見ていました。

もう一つ、骨子素案の２ページには、農業科の実際の状況、取り組み、方向があります。農業は命を育て、それを食料に変えるという命を繋ぐ仕事です。その素晴らしさや意義になると思いますが、農業科のところには「命を支える」もしくは「育てる」、「繋ぐ」、これらの言葉のように「命をつなぐ仕事」であることもぜひ入れて頂けると良いと思いました。

（委員）
　この度の内容については、高校生に関するアンケートの調査結果がしっかりと表れていると思います。ただ、前回も話したように、回答率が低く、高校生の意識として、アンケート内容をあまり重要に考えていないのではないかと、少し残念に思います。事務局でその方向性を見出すことに大変苦労されたのではと思っています。
　学びの改革に向けての骨組みですが、これまでの取組みについて私の立場で話をします。現在、少子化が進み、県内の中学校卒業者が県内高校へ進学する中で、定員割れが続いています。ここ近年は、県立も定員が充足されていないのが実態です。課題として固めなければ、これから先の方向性が見出せないと思います。これは、前回の総合教育会議でも、重要なポイントとして話がされました。これまでの実績評価に基づいた改革が必要です。富山県の環境を活かした強みに配慮することが重要だと話をされているわけですから、そういったところを改革の中のポイントにしっかりと組み込んでいくことが大切ではないかと思います。

（委員）
　まず資料３－２の 17 ページからの比較を見ていると、全体的に入善高校の満足度が低いと見ています。高岡高校に関しては、８番の ICT 機器に関する達成度が低いと感じている生徒がいるというところで、多少格差が出ているのではないかと思います。
　あと、再編前後で、例えば、本来行くべき高校がなくなったために、他の高校に行ったということがあると思いますが、そういったことの他への影響についても知りたかったと思いました。

（委員）
　この４つの学校の再編に向けて、県の方で検討委員会等々を開かれて進められましたが、その時に再編した場合の懸念や課題が出たと思います。それに対して実際に再編した結果、本当にその懸念が起きたのか、起きなかったのかという検証が一つ必要ではないかと思っています。これから高校再編の次のフェーズに入っていくと思いますが、その時にいかに検討委員会での検討に有意性があったのか、なかったのかということも含めてこれから考える必要があると思うので、そういった検証ができていれば教えていただきたいと思います。

（委員）
　新しく再編された学校のアンケートでは皆さんが大変良い評価をされていて、入善はやや低いような気がします。全体的に関係者の方々の努力があり、成功に向かっていこうという気持ちがあったのだと思います。学級数や部活動数も増えており、そういう意味で新しい学校には活力がついて良かったと思います。この後、卒業生の進路の結果が分かれば、もう少しはっきりしてくると思いました。
　３年間学んだ中で満足度が高いということは、今後の再編に向けた良さを少し見て取れたのではないかと思うので、ぜひ引き続き、様子を見ていただきたいということと、作り上げるときの意欲、努力が維持されるように、教育委員会の方でしっかり支援されていく

ことが大事だと思いました。

（委員）
　高校再編は、生徒数の減少や教員の働き方改革等、様々な課題の対処という意味で必要なことであり、また一定の成果が得られたということではないかと感じました。何事にもメリット、デメリットがあると思います。そのメリットを生かすために、デメリットとして何点か見えてきていますので、その対応をこの会議の中で可能であれば諮っていき、この後、さらなる再編が必要になるタイミングが今から来ると思いますので、将来に向けたプロトタイプにしていけばよいのではないかと思いました。
　デメリットとして、教員の方がおっしゃっている学力差の拡大、また先ほどから話に出ている入善高校の皆さんの満足度や達成度といったことが挙げられると思います。あとは富山北部高校の普通科の倍率が非常に高いので、希望しても入れなかった生徒がいたと思われるところが、気になりました。
　いずれにせよ、多様性のある仲間と社会性を磨き、切磋琢磨することが高校時代には必要だと思います。そういう意味で学校規模は大きくすることや生徒数が減る中で一定の規模を維持するための再編は、相対的、全体的な視点から成果があったのではないかと感じました。

（委員）
　まずは再編することによって、コースや部活動といったものが増えたので、生徒にとっては選択肢が広がり、満足度に繋がったのではないかと思っています。その一方で、何点か指摘があったように、アンケートの満足度は高校によって少し差があり、その差の理由を分析する必要があるのではないかと思っています。
　教員或いは保護者の方で、人数が増えたことで学力幅が広がったことにより、細かい目配りが難しくなったとの指摘がありますが、おそらくこういったことは再編の前からある程度懸念されていたかと思います。その懸念に対してどのように対処して、どのような効果があったのかをもう少し分析ができると良いと思います。そういう意味では、先ほどの委員がおっしゃったように、卒業後に生徒がどう思っていたかというような追跡調査もして頂けると、このアンケートが非常に生きてくるのではないかと思います。

（委員）
　アンケートを見るといろいろ満足度の差があります。資料２の高岡高校の統合前後での定員の違いを見ると、高岡西高校が丸ごと消えているイメージがあります。他では、統合校が少し学級数や定員が増えていると思います。伝統の継承や部活動の継承が掲げられていますが、統合各高校において、この見え方は全く違うのだろうと思っています。再編統合の結果、教育の効率や質、中身はおそらく４校とも充実しており、非常に良かったのだろうと思いますが、ふと我に返ると、高岡西高校については完全に消え去ったという感じがあります。アンケートにおける満足度にはそのような個別のイメージが出てきませんが、その辺りのケアや問題意識が事前にあったのかということ、父兄や地元からはいろいろと問題意識があったのだろうと思うので、定員や学級数が統合前よりも減ることは本来の目

的であり、致し方ないことだと思いますが、その辺についてどうだったのかが非常に気になります。

（委員）
今回の再編統合を受けて、それぞれの学校においてこれまでの伝統の積み重ねの上に、さらに新しい魅力が生まれてきているように映りました。実際に入学を希望する生徒たちにとっても、選択肢の幅が広がっています。これまでの議論の中にもありましたが、それぞれの学びや思いに応じたカリキュラムや学校の特色の実現に繋がっていると思います。
それから、いずれの学校を見ても、多様な活動が展開されるようになってきています。それぞれの学校で、地域との関わりが統合以前に比べて深くなったということで、先ほど「チーム富山教育」という発言がありましたが、こういったことが実際に芽生えてきているのではないかと感じています。恐らくはスケールメリットもあると思いますし、例えば、男女比率の改善や教員配置といったものの充実等もその背景にはあるのではないかと感じながら資料を見ていました。地域との連携の中で、多様な活動に取り組みながら、子どもたちがお互いの関わりも深め合いながら学んでいる姿が、この調査からは受け取れると感じました。

（委員）
資料２の８ページにあるように、学校規模が県立高校にはある程度必要であると思います。統合校の校長からの意見の中に、南砺福野高校の場合、「４学科体制となり、生徒数も増加したため、学校行事や部活動により積極的に取り組もうとする雰囲気が生まれ、大いに活性化した」という文言があります。
また、資料３－１の生徒対象の満足度において、「生徒同士の関係」がどの高校でも挙げられています。仲間と協調する力を伸ばすことを考えた時、小中学校の規模がどんどん小さくなっていることで、特に中学校において人間関係が難しくなってきているという現状があります。そうした中、高校である程度の規模があり、多様な生徒と出会える機会があることは、子どもたちの協調性というか、社会性を高めるという点でとても大事であり、それが社会に出てから大いに役立つのではないかと感じています。
実際、砺波市の中学校から南砺福野高校を希望する生徒が多い事実があります。中学校の時にはなかなかイメージを持てませんが、高校に入ってから多様な科目を選択できます。入善高校にしても普通科の生徒が農業科の科目を選択できるといった多様な選択肢があることは、生徒にとってとても良いと感じました。

（委員）
学校の教育活動は、授業が根幹をなす大切な部分であり、また、学校行事、部活動、生徒会などの活動が生徒の成長を促すので、これも極めて大切な活動だろうと認識しています。そうした意味では、このアンケート結果から、生徒同士の関係、部活動、そして特に専門学科では、進路に役立つ教科の学習などにおいて生徒の満足度が高いことが分かり、これは特に良かったと思っています。部活動の数も新高校では多くなり、いわゆる学校規模の確保に効果があったと感じました。

その他にも、新高校での魅力づくりのための取組みは学校ごとによってそれぞれ異なりますが、大変評価できるのではないかと思っています。新高校では、新しい体制のもとで、いろいろご苦労もあったのではないかと思いますが、そうした意味では、新高校の先生方には敬意を表したいと思っています。

（事務局）
欠席委員からのご意見でございます。

（委員）
保護者や先生方の感想に、統合した学校に学科やコース、部活動など、それぞれの学校の特色が残されて、魅力が増え、選択肢が増えて良かったという一方で、学力差が大きくなったと感じられるという意見がいくつかあったことが気になりました。
部活動で高校を選んだお子さんの親御さんから、推薦で行ったものの学力がついていけないと悩んでいるといった声を聞いています。魅力だけではなく、学力向上についての工夫も必要になってくるのではないかと感じました。

（委員長）
概ね委員の皆様から肯定的な意見があり、それは良かったのですが、この段階で私も気づいたことを、少し厳し目に申し上げます。
まず一つは、このアンケート調査結果の回収率です。特に再編統合校の新校教員の方の回収率が 55.5%、保護者の方の回収率が低いのは分かりますが、このアンケートによって今後の再編統合におそらく影響してくると思いますので、私は低いのではないかと思います。そこで感じることは、こういったアンケートをしますと、回答しない方、興味がない或いは忙しくて回答しない方がいると思いますが、このアンケートそのものの内容というよりも、再編統合に関してもしかすると心の中でネガティブな意見を持っている教員の方はアンケートに答えてない可能性があるのではないかと懸念されます。
例えば、このアンケート結果で特に気になったのは、教員の方の答えの中で、「学校規模が大きいことで生じるメリットはどの程度か」における「生活指導の充実」についてです。入善高校について見ると、統合のメリットがほとんど感じられない、むしろほとんど無いというご意見が多いので、規模が大きくなると生活指導のレベルが必ずしも上がっていないと感じる教員の方が多い可能性があります。以前の会議で、学校のマネジメントがどうなっているのかという意見もございましたので、そういう点に着目する必要があるではないかと思います。
それから全体的に、生徒の皆さんは新高校に関して、特に大きな不満がないということは各委員からもご紹介いただきました。これは大変ありがたいことである一方、資料３－３にある県立高校再編の評価のまとめ方は個人的にはどうなのかと思います。例えば、教育活動、学力は充実したと本当にこのアンケートから読み取れるかというと、旧校と比べた訳ではないので、学校長が充実したというご意見はありましたが、不満がないということで、本当に充実したかどうかはこのアンケート結果からは、やや疑問に感じます。
特に、２番目の学校行事の活性化。確かに生徒数が増えたら、規模が大きくなって、見

た目が派手になりますが、このアンケートでは高校を決める時の保護者あるいは生徒の皆さんは、学校行事についてあまり重きを置いていない結果になっています。それなのに、「大きく学校行事が活性化しました。従って、この再編統合がよかったのです」というのは、やや我田引水のような評価、まとめになっているのではないかと気になるところです。

あとは先ほどの委員からもあったように、この再編統合に当たって結構問題があったのは、校歌がどうなるのか、或いはＯＢ会が統合されるのか、そのままでいくのか。地域の皆さんやＯＢの方の意見とするとその辺りがものすごく強く意識されているご意見もたくさんありました。また、教育委員会にもその旨の電話があったということを耳にしていたので、高校再編によりその辺りはどうなったのかをある程度、客観的なものとして提示していただく必要があり、これがさらなる再編統合の問題解決にも繋がる可能性があると感じました。あと、総体的には、生徒の皆さんの満足度が再編統合によって下がったということはなさそうであり、大変ありがたいと思います。

それでは続きまして、県立高校の学びの改革に向けて、ご意見を賜りたいと思います。

（委員）

資料４については、前回の会議の中で少し触れさせていただいたところです。今回の資料４のところで、各学科に県立高校全体としての視点、観点を出せばどうかということを述べさせていただきました。このようにしていただくことで、高校全体として取り組んでいく、これも「チーム富山教育」の実現に繋がると思います。

そして、「チーム富山教育」の実現ということが、６つの方向性のⅡにある「地域・大学・企業や学校間等の連携による取組みの推進」というところに、しっかり示されていると感じています。ここに挙げられている理念や方向性は、小、中学校の義務教育９年間において、一貫して目指そうとしているところと合致します。実際にこれから魅力ある高校づくりが進んでいく中で、これはお願いのようにもなりますが、「チーム富山教育」の実現の中に、市町村立学校との連携、それぞれの地域との連携等が入っていけば、幼・保小中特支といった様々な校種の学校等とも相まって、充実した富山らしい教育環境にも繋がっていくのではないかと思っています。

それから、４のところにある、普通系学科、総合学科、職業系専門学科の３つについては、探究型の学びの充実に関わるような記載があります。定時制・通信制は、授業形態等、いろいろと課題があるのかもしれませんが、例えば、地域に出てなされるような活動を念頭に置けば、こうしたところで探究型の学びをある程度実現できるのではないかと思っています。この点において、またご検討いただければと思っています。全体的には、見やすくなったと思っています。

（委員）

前回を受けて、非常によくまとめていただいていると思います。中身については、大体良いのですが、先ほどもお話したように、高校のスケールメリットに関するようなことを今後の取組みの中に入れていくことはできないのかと思います。

それと、先ほどのアンケートでいろいろと検証をされていますが、今後の再編統合に向

けて、前もって事後の検証をするための準備として、何か取り組んではどうかと感じました。例えば、今の県立高校のすべての生徒に同じようなアンケートをとり、その後に、統合された学校に対して同じアンケートを取ったものを比較することで、実際に統合した時のメリット・デメリットがもっと見えやすくなるのではないかと感じました。

（委員）
新高校に係る資料を拝見して、私はアンケートがとても重要であると感じています。継続したアンケートの実施でＰＤＣＡを回すことができるのではないかと思っています。
今回の骨子を拝見すると、すごくわかりやすくなっていますが、またアンケートをとって、どのような効果があったのかを検証していくことが重要ではないかと思いました。

（委員）
資料４の４「今後の魅力と活力ある県立高校づくりに向けた６つの方向性と各学科等の取組み」にある４つの要素にある「学びの魅力や特色について、効果的な情報発信」は、是非ともお願いしたく、ここに入れていただき本当にありがたく思っています。
２枚目からの各学科については、特に探究科学科、国際科、農業科等の特色ある取組みについて、大変詳しく書いてあり、分かりやすいものになっていると思っています。今後の取組みの視点と目指す方向は、各高校にとって一番大切な部分ではないかと思います。それをもとに各学校の特色を取り入れてどう取り組んでいくかといったように、柱になるものと思っているので、内容はこれで十分かと思いますが、各学校にはこれをもとに頑張って欲しいということを県教育委員会からしっかりとお伝え願えればと思っています。
そして、中学校、中学生、保護者にしっかりと伝わるように、今後も情報発信をしていただければと思います。

（委員）
１ページ目の「チーム富山教育」というところをぜひお願いしたいと思います。２ページ目以降の、特色ある取組みというところでも、地域・大学・企業というキーワードや非常に良い取組みがあり、目指す方向も出ています。私は、技術サイドの大学、企業ということについてはイメージがつきますが、地域ということについては、具体的にどのような授業をしていくのか気になっています。

（委員）
最初の背景のところについて、前回は国の動きのようなものの記載がありましたが、今回は消えています。あまり本筋ではないかもしれませんが、国と富山県という位置付けのようなものを客観的に見る上で、国の方向性のようなものも、前回にご意見があって消えたのかもしれませんが、どこかにあった方が良いのではないかと感じました。ただ、富山県の学びをクローズアップされて、うまく整理されてきたと思って拝見しました。
４の６つの方向性は概ね良いのですが、Ｖに「魅力と活力ある学校づくりを推進するための教育環境の整備」とありますが、「多様な環境整備」といった形で、いろいろな意味で環境整備をしていくというイメージを出すともっと良いのではないかと思っています。

前回よりも大分詳しくなってまいりましたが、職業科の中にいろいろな系があり、とりわけ家庭科系が生活関連産業への人材育成という位置付けで書かれています。かつては家庭の中でのいろいろな機能が働いておりましたが、なかなかそういう機能が家庭の中からなくなってきていることを考えると、生活関連産業の基礎となる教育というものをこの中でしっかりと位置付けていかなければならないと感じています。

生活関連系のことを踏まえると、職業教育としては、こういう分野のところを中身や時代に合うように検討しながら、地域との結びつきや多様な人材を育てていくという見方で職業科の部分をもう少し考えていく必要があると思っています。

余談ですが、女子大学の中に工学部ができています。生活に関わりのあるものを生み出す際のものづくりの基礎的な位置付けとして変わりつつありますので、高等学校においてもその基礎となるような教育がなされても良いのではないかと思っています。

（委員）

前回からいろいろな修正があり、基本的には整っていると思っています。先ほどの委員からもありましたが、情報確保について全体の今後の取組みにフレーズを入れていただいていますので、非常にありがたいと思いながら見させていただきました。

ICT の活用に関しては、これまでタブレットの配布などハード的な部分は大分充実してきたと思いますので、これからソフトというか運用面でいろいろなやり方により ICT をどんどん活用していくのであろうと思います。４に ICT のことについても書かれていますが、個別の最適な学びと創造的な学びは方向性が違うので、それぞれしっかり取り組んでいただきたいと思います。

職業科は割と具体的なことが書かれていますが、普通科、探究科学科といったところは一般的なことで書かれていますので、どういった形で個々の生徒に最適な教育をしていくのかということを考えていただきたいと思っています。前半の方でも学力差のようなものが学校の統合で出てきているかもしれないというような懸念もありますので、そこに力を入れていただければと思いました。４のⅡにある連携について、ぜひ大学の方も使っていただきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

（委員）

かなり統一感があって、まとまった内容になってきているのではないかと思いました。個別の教育化というか、将来の取組みについても比較的統一感がある形になっていて、全体としても良い形になっているのではないかと思います。

一方、少し気になったところがあります。今後、学級統合や学校統合が少しずつ進んでいき、学級数が減っていきます。このあり方検討委員会の中でよく話題として出てくるのが、職業科や普通科といった学科を跨る移動や学校を跨る移動、要するにカリキュラムの統一化というか、互換性というか、そのようなことを充実させるには、ICT 等が進んでいるので、それを活用すれば非常にやりやすくなっていくと思います。

再編統合においても、むしろ学校をなくさなくてもいいということも可能になってくるのではないかということで、未来に向けて学校の壁を取り払えるような共通した動きが非常に重要になってきていると思います。学科なり、科目なりを飛び越えた話ですので、全

体的な管理については、すごく汗をかかないとできない部分だと思います。
　これから進んでいく、進めようとする方向性、効率化や教育の充実ということを同時に進めていくのであれば、そういったベースラインのところをしっかりと作り上げて行く必要があります。ただ形として、IT を進める、リモート授業するといったことだけではなかなか解決しない問題がたくさん出てくると思いますので、今のうちから準備しておいた方が良いと思います。

（委員）
　先ほどもありましたが、国の方向性はある程度は書き出した中で富山県はこうあるべきだということを書き出していった方がいいと思います。

（委員）
　まず、学びの改革に向けてという１ページ目の資料については、前回の議論を踏まえ、良い方向に修正されたと思っています。２つ目に各学科に向けての資料が今回提示されましたが、率直に学びの改革に向けてやるべきことがたくさんあると感じました。
　皆様方もご存知だと思いますが、各高校では、今年度からスクールポリシーを定め、各校の特色を踏まえた取組みを進めてきています。この改革に向けての骨子がまとまれば、こうしたことも踏まえながら、改めて各学校の教育方針、教育の方向性を考えていくことになると感じています。先ほどの委員からは、県の方でこうしたことが各学校にしっかりと浸透するようにというお話もありました。学校側とすると身が引き締まる思いです。
　もう一つ、情報発信の大切さということについて私も同感です。ただ、先ほど委員長からあった学校行事といったものに関してですが、自分がどう変化するか或いはどう成長するかということを中学生が入学前に想像することはなかなか難しいため、こうした項目について強く表明できないといった部分もあるのではないかと感じています。特に学校行事などは、中学生にはなかなか強い思いはないのかもしれませんが、実際に高校生を見ていると、それを通して大きく成長していく姿が見られます。そうした成長した自分の姿は、中学生の頃には想像がつかないことなのだと思います。こうした教育活動について、情報発信を行うことで中学生の高校へのイメージに繋がることもあれば、想像できない部分も中にはあるということもご承知いただけるとありがたいと思います。
　最後に、今回この資料に、配置や定員という言葉が付け加えられました。少子化の中で、県立高校が進んでいくべき方法について検討されることになったのだろうと思いますが、やはりこうした学校規模の問題は今回のアンケート結果を踏まえて、検討を進めていただけたらと思います。

（委員）
　私は前回の委員会で、３つのことを申し上げました。１つ目は SDGs への取組み、また、２つ目が主体性の向上につながる取組み、３つ目が多様性、ダイバーシティへの取組みです。資料３のⅡ「社会の持続的な発展を担うための、主体的に課題を発見し解決する力や他者と協働して解決策を生み出す力の育成」や、Ⅲ「自己と他者を尊重し、多様な価値を認め合いながら、よりよい社会を築こうとする態度の育成」にしっかり盛り込まれており、

大変良かったと思っています。
　そういう中で、トヨタ生産方式による人材育成にマインド、ノウハウ、スキルという３つの資質があり、意識、知識、技術を高めるということなのですが、ノウハウやスキルについては、ICT 教育等も含めて細かく規定されているので、マインドやモチベーションについて申し上げたいと思います。３のⅡとⅢに規定されている、社会課題の解決にチャレンジするアントレプレナーシップ。仲間や他者と協働していくチームワーク。そして、多様な人々と協働して、多様な価値観を認め合いながら進めていくダイバーシティアンドインクルージョン。この３つをぜひ多感な高校生の時代に未来をつくるために、身に付けていただきたいと思います。

（委員）
　１，２，３，４という流れが非常にスムーズにできています。１では、「多様な人々と協働しながら」という一つのキーワードがあり、「３つの横断的な取組み」の中に、「課題解決型の教育」とあります。２「これまでの取組み」では、「授業改善の推進」、「課題解決型学習の推進」があります。これは小中学校でも進めていることで、小、中、高校で同じであると感じます。
　そして、３「学びたい、学んでよかったと思える高校づくり」では、「主体的に課題を発見し解決する力、他者と協働して」という部分が出てきます。また、「多様な価値観を認め合いながら」という大事なキーワードも出てきます。それを受けて４には、課題探究型の学習が職業科にしっかりと入っています。これは先ほどの委員からもあったように定時制と通信制の方にも入れられるのではないかと思っています。課題解決型においては、自分１人ではなく他者と協働しながら課題解決していくという力を富山県教育としてしっかりと育てていく、そして送り出していくことが大事であると考えているので、非常にわかりやすい資料になっていると感じました。

（委員）
　前回、この報告書をフルモデルチェンジにするのか、マイナーチェンジにするのかと投げかけました。今回案を拝見して、マイナーチェンジで行くということがよくわかりました。そうであれば、この中にも、今後さらに検討していく項目が随所に隠れているので、それはフルモデルチェンジになるときに活かされると、前向きにとらえたいと思っています。このマイナーチェンジの件において２つの点を明らかにしていただければと思っています。
　まず、先ほどの委員からもあったように、「チーム富山教育」の連携先は義務教育が絶対にマストだろうと思っています。教育内容だけではなく、教員の養成や育成の対応等にも、義務教育との連携が必要になってくると思っています。
　２点目ですが、教員のなり手不足の現状を踏まえて、教員の方々の職場、環境のシステムを構築することがこれから大事になると思っています。学校の世界はなべぶた式とよく言われます。校長先生がいて、その下にいる先生方が横一線なので、その中にヒエラルキーが存在しません。責任は一手に校長が引き受けて、他の先生方はほぼ同列になります。これは実社会ではありえないことです。それから、新卒の先生も困るわけです。１年生と

10年生は違うわけですが、その仕組みをしっかりとつくることで、１年生から順々に力をつけていって、５年生、10年生、20年生というようになっていけるような学校の体制という先生方のヒエラルキーをつくらないといけません。若い人にとってみれば、入ったらいきなり先生と言われて、いきなり保護者の対応をし、いきなりクレーム処理をさせられ、いきなりいろいろなことをさせられる環境では、おそらく先生になりたいとは思わないだろうと思っています。これは一般企業でも同じことだろうと思うので、教員育成マネジメントのようなことをここに説明をしていただければと思っています。

それから学科のことについて１点あります。ドイツの職業学校で採用されているデュアルシステムの考え方は、職業科、特に工業系のところでは、ぜひ検討に値すると思っていますので、この項目をぜひ加えていただきたいと思います。富山の高校生マイスターと書いてありますが、本当にマイスターのことを考えているのであれば、もう少し真剣に職業教育も変える勇気が必要なのではないかと思っています。

（委員長）

最後に私のまとめというよりも、改めて感想を述べさせていただきたいと思います。最初にお二方からの「国の施策はどうだった」ということについてですが、これは前回多分私が発言して、「どれが県の施策かどれが国の施策かわからないので、分けて記載したらどうですか」というお話を申し上げたら、国の記載がなくなったということであると思います。おそらく国の施策というのは、この一番上にあるSociety5.0、グローバル化の進展等が前提にあるのだろうと理解しています。

まず高校再編については、今回、生徒の皆さんも改めて満足度が低くないことは良い結果であったと思います。個人的に高校再編は推進派です。一方、小学校の統合は反対です。特に、小学校低学年では歩いて通える幼稚園や保育園と似たような形を考えるべきではないかという私の考えがあるので、小学校再編は基本的に反対でございます。

問題とすべきは、４から８学級にする大前提の発想です。この４から８学級はいつ決められたのかというところが気になります。例えば、仮に15年前に決められたとしましょう。そうすると、15年前に現在の状況をどれだけ見通せていたのか、特に少子化はその時の人口推移よりは、急速に進んでいると思います。特に地方において、ものすごく急速に少子高齢化が進んでいます。それを見越した上で始まったのかどうなのかというところです。

もう１点は、ITの大幅な進展です。これはそれまでの学級単位、クローズドなものの考え方ではなくて、ITの力を使えば、今現実に１人１台のデバイスが配られて、リモート授業も行われているわけなので、従来型の学級の考え方が相当に変わってきています。それなのに、その当時のかなり前に決められた大前提に従って、再編統合を単純に考えていいのだろうか。ある程度の時間が経ちましたから、環境が随分変わっているのではないかと思います。そこの検証をしていただいた上で、次の再編統合ということを考えていく必要があるのではないかと思います。

それから、２点目の県立高校の学びの改革については、骨子素案として、皆様のご指摘のとおり、大変立派なものができあがり、ありがたいことだと思います。私は会社の経営をしておりますが、問題になることは、こういう題目から実際にその行動にブレイクダウンしていく時どうなっていくのだろうということが気になっています。

昨日、高等学校の卒業資格はどうしたらもらえるのだろうかと文科省のホームページを調べたところ、学習指導要領では、高校３年間で卒業認定に必要な単位数は 74 単位でした。そのうち必修科目は最低 35 単位で、実際には 85 単位教えていらっしゃるそうです。そうすると、文科省の高校卒業資格に必要な単位は 35。そして実際に、すでに設定できるものが、85 から 30 を差し引いて 50 単位となります。気になることは、４「今後の魅力と活力ある県立高校づくりに向けた６つの方向性と各学科等の取組み」の中に「推進」という言葉がたくさん出ています。この「推進」は単なる題目なのか、単位設定には相当な自由度があるわけなので、その具体的な評価やシラバス、事業計画の中で、ここの単位を増やそうとするのか。特に気になるのは、STEAM 教育です。アートが入りますが、もともと STEM 教育として日本でいう理工系の教育を増やそうということが大きな国の方針にもなっているわけです。その STEM に関するような単位数をどう設定するのか。これが以前と同じであるならば、それは「推進」と言いながら、結局は単位というレベルにブレイクダウンしていくとほぼ同じになるのか。先ほどの委員からマイナーチェンジという話もありましたが、「推進」という言葉が、具体的なシラバスの中でどう展開されているのかというところまである程度考えていただかないと、或いはお示ししていただかないと、本当に「推進」になっているのかどうなのか判断できないところがあるのではないかと思います。

委員長でありながら、教育委員会へは厳し目の発言をさせていただいていますが、やはり教育は大変重要だということをご理解の上、ただ教育委員会を盛り立てるだけであってはいけないと思います。

５　教育長挨拶

議事が終了したので、委員長が終了を宣し、進行を事務局へ戻した。

（事務局）

最後に教育長が一言ご挨拶申し上げます。

（教育長）

この検討委員会も、早くも第７回です。本日は雪の懸念もありましたので、オンラインの形に急遽させていただきましたが、ご参加いただきまして本当にありがとうございました。何点か申し上げたいと思います。

今回は高校再編の評価と県立高校の学びの改革骨子案を議題とさせていただきました。たくさんのご意見を頂戴して、心から感謝申し上げます。まず、この評価についてですが、全体的には概ね大きな不満がなく、概ね満足度が高かったのではないかということは良かったことではありますが、委員長さんをはじめ、本当にこれで充実したと言えるのかというお言葉もありました。確かに部活動等で活性化したということもある一方で、生徒指導の面では必ずしも満足度というか評価が高くない、或いは学力差といったことへの懸念ということも少し表れています。こうしたことに対して、現時点で学校がどう対応しているかということ、これからさらに学校が歴史を積み重ねていく中で、どう対応していくかということをしっかりと見ていかなければいけませんし、教育委員会としては手当もしていかなければいけないと思っています。本当の評価、教育の評価は、やはり少し時間もかか

りますし、また非常に難しいところもあると思っていますが、この春、新高校としての初の卒業生を送り出すということもあるので、まずその進路にも注目したいと思いますし、継続的に見ていきたいと思っています。

特に規模が大きくなったことについて、もう少しわかりやすく評価してはどうかといったようなお声もありましたので、参考にさせていただきたいと思っています。

４から８学級といったこれまでの基準について、確かに令和２年の再編統合はその基準に基づいて検討して進めたわけですが、この考え方については、来年度以降、また新たな検討の場を設けて、検討していくことになると思っています。

学びの改革についてということでお示しさせていただいたものについては、こちらも概ね良くなってきたというようなお声をいただきまして、ありがたく思っています。この中では改めて、大学や地域、企業等との連携が大切だということ、情報発信が大切だというご意見を本日もいただきました。本当にその通りだと思っています。これは今後、再編や統合により配置を見直していく中で考えることはもちろんですが、それを待たず、取り組めるものはできるだけ早急に取り組んでいきたい、進めていきたいと思っています。

カリキュラムの相互乗り入れや、いわゆる壁を壊すといったような方向の意見も多かったと思うが、その辺はどうかといったご発言がありました。職業科の一層の改革といいますか、デュアルシステムのようなものをどうするのかといったご意見も頂戴しました。今の学校制度の中でできること、それと今すぐには難しいことなどいろいろあるとは思いますが、考え方としてはそういった方向と思っているので、その辺りも現時点でどのように盛り込めるかということを考えていきたいと思っています。

それと、国の動きについてのご指摘もありました。これは今後、報告書にする時には入れていきたいと思いますし、定時制・通信制の記載についても考えたいと思っています。

あと、骨子を実際の取組みにブレイクダウンする時にどこまで本当にできるのかと、「推進」が何となくの「推進」ではいけないというご指摘もその通りだと思っています。実際のシラバスや単位にどう生かすかということは確かにあるかと思います。新しい科目を作るということもあるでしょうし、既存の科目の中に、カリキュラムのマネジメントとして全体的な学校の計画の中で位置付けていくということもあるかと思いますが、ご指摘はしっかり踏まえて取り組んでいく必要があると思っています。

その他たくさんご意見をいただき、触れられなかったところもありますが、しっかり踏まえていきたいと思っています。本当に熱心にご協議いただきまして感謝申し上げます。

この委員会ですが、次回は２月中に開催させていただきたいと思っていますが、本日までの議論を踏まえて、報告書案という形でご提示できればと考えています。これまでの大変ご熱心なご協力に感謝申し上げますとともに、引き続き、多方面からご意見を頂戴したいと思っていますので、ご支援ご協力を賜りますよう重ねてお願いいたしまして、一言ご挨拶とさせていただきます。本日もありがとうございました。

６　閉会

11 時 45 分、司会が閉会を宣した。